明和六己丑

歳回

新花林

雲笈七籤
雲笈七籤

病己丑歳旦　午花林　平砂

老をやしなひむらうて事ぶく
暫く光眼を休め心が安んず

かゝる世界に初暦入る冬

春興

うぐひすの
やゝこめたり
竈なりけり

道那久八立枝迄
を繰る烟乃
梅

歳暮

店下の出張小所移り
寥楷や師走盤の数出れ
白雲のよるよる花数加尼彦し
添れ〳〵その度ごと光明朱

歳旦

出花房　百砂

門松や動かぬ御代の二もとら
子すちまつ沢原國ち茶水　平砂
簡をもみ腔に誘ふ人間て　貞喬

歳暮

春興

梅咲やいかたなへん俺　影百砂
掛鋼の歯を書かし年乃暮　仝

歳旦　新花林

青雲の翼のゆみの明の哀　臺砂

鯉先うおく色濃く紙子　平砂

百年風に樂を乃深を尋て　東寓

吉興　歳暮

男ちあるゝ人ゝ人せ〜梅の臺砂

魅ゝ引根松のわくゝの内回

歳日　素堂

佐保姫の配ゝふかひや袋　墨川

千里行を獨て年のゝ柄外　仙峨

元日や晴て格りゝ新　馬陵

ゝ摺の春ゝ宮ゝはもゝか

麿の目をとゝ和くゝや初日彩　曲江亮

世ゝ麿の足ゝ公務を行ゝ　桑水

青やゝ野馬もゝ人摺下る雀　桑水

世の挨ゝようれゝゝゝはゝ

幸を開くゝ和あけの春　千砂

都を松を地氣のゝゝゝ俤

立ゝ青宮古八日本の俤　山苔雨

ゝのゝゝ慾目ゝ閣を祝ゝ

年明る青八巳今車井戸　八虎

一ゝゝゝ乃ゝ桜ゝ師ゝ山

初空ゝ東風ゝとゝれの熨斗目色　井花

ゝの尾ゝ心の駒ゝ散ゝ徳

日の歩ゝ人のあゆゝゝ世ゝ春　箕山

菩薩ゝ独て嵐の年れぬ

門松ゝ幾ゝてゝ山あゝ　砂月

煤掃ひ木るゝ楽ゝ登ゝゝ

初春ゝ吋ゝく演の帆立貝　菊文亭百砂

万葉の印ゝ乃ゝ笠

蓬莱を産つ祝の海より　平沙

眼初あけを学ぶや年ぢ数もすのら　丶

多乗や鼓うち出す　寶物　砂丸

借貸の印ょ靡や係ぢ梅　丶

奥深き千代ハ緑や門の松　平樹

旬へとろ寿の彩まりとーぢ梅　丶

初書や仏ぢ倍の面清　砂迪

一百ハ大工勅所ぢもろ　丶

新春の彩て怪ぢ初ぢ　泉合

入れや波乃上ちる年の市　丶

仕合せの的ハえつさし弓　始平枝

年の内ィ春ぢ根ぢしや飾松　丶

潜くぬ抜ふ笑島を花の春　川旭

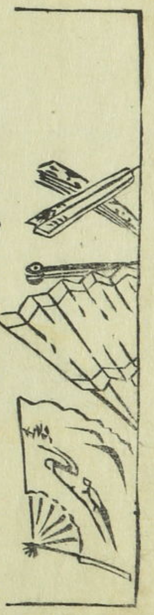
傷春や扶ぢて見ゆる梁ぢ　丶

ままろぬ髪ぢ加ぢーぢ梅ぢ　皐舎

寄り乃も有ぢ比春ろやくの市　丶

天秤に二重の門や松かさり　百称

すく掛塩ぢ比ぢ釣の糸買ん　丶



奏もの開くや千代の扇奏　楚龍

入船は筑紫や俵やとゝみ山、

巻鳥乃八壱は賦き福寿艸　我東

関は兄弟赤間硯ふ年美ぬ、

いさきよや年の見せの隈と聚へ　富砂

手既ふ入りて豆を持おか、

事見ゝや多門ありふ門飾　砂益

酒を拾家や一刀の孝ゆ為、

日荒の矢立納めてくゝれね　砂常

を治人の業も賢日や玉代出　餘昔

ゆくゝゆ既は位を結ふ反原、

ちゝ代はまたゝれく牛の泡介　三好

ゝ男梅れの餅や京乃物、

元野や声を飾の松囃子　洞枝

あふちゝ八安き浜や年の冥、

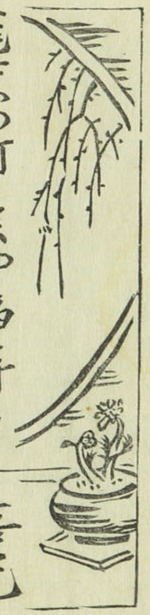
元日は左右八口つき知る影　田砂

日の弓日ち矢を早き年ゝ的、

梶や菜のとちる玉代出　平花

けゝゆやをもとゝあゝゆ墨の形、

黄買の宝競へや年は市　柯負



蓬莱の汀よ咲や福寿草　喜光

うゑついて居所を柳のゑ柄か　、

月花かちやらぬ咲や年ゆきれ　來茹

初物乃江上いそし福寿艸　、

松ちりか米いくたへや四拾ゑ　著明

木を竹も音旬くらふの嶽か　、

空声の生ひ余りや鬼ゆ外　宗楓

初日影かくや宮長物羽色（伊申改川新）　、

二月を待やいさみの三度あり　、

（雜）

初日先屠蘇ちゑの花　撰枝

一とせの酉や洋蘭を養おろり　、

見まうふやくの市人一ツ役　岨木

柱根のいろはを年乃始哉　砂暁

一枝の庇とや蘭の梅尺寸　、

孫の手（はつ秋）ちり面（ことくるまりて）枕ゑりゑの乳　專里

つれや雀乃告行鶏の尾　砂山

袴ゆく相もこゑ行年の市　、

竹ゑ先連理の枝や門かさり　其樹

すくまつ月日の候磨切記　、

歳旦　吉兵歳扨　任到來之発後

山松の影のぬ木振門乃衣　緑柄

楪沢や玄ゑとゆんの亟形　、

若ゑゆや人のつゆを出通ゑ　耕長

沢垣の塵彩しやくゑち菅（浪弟）　、

三十川（丹吉ま）ゆりて六ほや沢の花（ゑふ）の亟　甚帳

市〜のちすまゆ、衣鶏て田芹掛　、

沢柵の灯や六川ゆりて除夜の幅　、

たちふれば買ふて笑ちん懸賞文　芝汀　連砂
既ふれば井戸も寒数や大晦日　〃
ちくめとや袖幅廣き今日の春　里山
と〜波をうちよせりおぼの骨　〃
大晦のやき捌ぎや　玉の春　春潮
聖をたんんの底やくみ蓋　〃

春興

鳳翠

庵眠法花ま戯ふ〜かが修式
嘗　曲と古き集まも　平砂
菜　蓋

自習のまてやの色ちゃ世の色　嘆翠

歳末

十日　歳月　間ふ召寸飛車の勇ミや梅乃宴　白清
挑く灯ふ笑新世〜　衣配　〃
よき位居凡付て成る梅凡ん子　流窓
寅まも孤の光一と〜のれ　〃

二句

多追ま多習既南〜隠若ふ
詩歌の味ちゃて多ちゃ寒鳥　律山

〜星の白ひ孔ちて寸夜ち桜　同惜
池まこ新〜蛙　待　窓　平砂
ちゃ待や梅と柳の合角力　田楊

○

梅ゃ実ゃ切立込〜関へも　同事
〜ひすこ有るま炉の片隅　平砂
併掲ゃ豆姫蓬ハ田の素々も　田ゃ
妹子　掲おゃ有るま菜式　平枝
恵方かゃ形ひの豆ゃ　扑宝　宗楓

人日　神奈川なる竹耕庵に住し自袖のちりを拂ひて

我為に掃む原野の若菜かな　範路

梅さくやかのうに麦の青嵐　柳雫

まゝこをさ猫の目なるさや梅入る　岨木

学ひて心あてゝやわりまつゝ　砂益

昔のこゝろ探くや梅の谷　其樹

泉州芭浦寒香庵

○三章

仁義礼智ちんとかと初日哉　璧

境仏吉のみつわもちとふるを

今の世の老木乃花やまとすし　夢丶

帆柱を納ふとうの梅ゝ

人日

七種を切うの角〳〵梅子哉　臺簫

あ梅ちるく梅〳〵き立　千砂

歳暮

呑めやの光陰燈上戸を除却の伽藍

年籠諸篇積數第壹讃　句五　平砂

元日　角かと長ちりの時祝おろ

次矢ガ出ル

年玉

天ようを

二日

あゝ矢を魔手てちすかな

三日

梅の酒

四日

人日　七種乃日を梅ゝや爪印

万歳や今りふ通り家ち富　友我

亀の背小便をいしるの市丶

歳暮　任永茶之序

午志林の主八手三十六年ありの四ミ月
社ゆ月ゆ仕点印を故郷りて焼り
まをくの日を不易ア流師しるく

裏和田の翁と原を嫁りり　湖長
故郷を持ちすくもちやうの俳よりりりの
作りて歩りの俳よりりりりの

正月の祝儀に汁粉餅　莫大
ゆくとの鏡八りて矢の正　紀貝
拙女まとみてくくしゃくくれば　輝牛
歳のくもあやも張る長張町　千枝

面白やおうーまの年の天満松　紀見
あくかるるつう祝ておうー年の暮　丁東
老かくりんえりハ　文國
あして客を詩を亦　蛇水
水小仙て巻マ暦を右巴　孚川
煤を今日竈の浴マも釈洋　自抄
大松を世の力マ年乃坂　魚川
霄節白大晦日をはあめ　石絲
年を裏春祝表忘除ア　玄菊
光さの余り梅ア　家橘
併つをくをもも及ま庵所　亀全
水門の常水初師走か　実瓶
乃ルを岡主猪ひきあ　紀湍
を光白人を油よ春り　青坡

歳

守歳

天竺と炎光灯九除夜の色　秀億
年乃市青梅の庵ありも　栖鶴
世色乃師を梅の乃金　貞喬
松の井戸の柵ケをり　東寓
年の矢を射ろんを鬼外　牛呑

内三郎田中